

清水香澄

よろしく申し上げます。

私は、「祭りの要素を街に残す建築」をテーマに卒業制作に取り組もうと思っています。

まず、このテーマの背景を説明したいと思います。

私は、4年間の中で、〇〇らしさについて考えることが多くありました。例えば、京都らしさ・福井らしさ・私らしさ。そんな中で、「地域らしさ」が、街の中から失われていっていると感じています。理由は2つあります。1つは、その地域でありながら、ハウスメーカー的な町並みによって全国どこを見ても同じような町並みができていること。2つ目は、(コンビニやスーパーなどができたり) わざわざ他人と関わらなくて良い環境が可能になったことで、「地域らしさ」を形成していく住民たちが、地域に興味をあまり持たなくなったこと。この2つの要因に気づいた事が、「地域らしさ」が失われていると感じた理由です。

そして、実際に「地域らしさ」を失うことは、そこに住まう人たちの地域に対する愛着心を遠ざけてしまいます。地域は活性化せず、このような様々な問題が起きると予想されています。

“地域コミュニティ衰退による問題を図式化”

このような背景から、私は、「地域らしさ」を街に残す仕組みが必要だと考えています。そこで、重要だと思われる、地域アイデンティティーの創造と、地域コミュニティを活性する「場」or「拠点」の提案をしたいと思っています。

「地域らしさ」「地域性」を考えるキーワードの中から「祭り」というワードに私は注目しました。

その理由は、「祭り」が、地域アイデンティティーの創造とコミュニティを活性することに効果があると考えられたからです。

祭りは、その地域の文化や風土に根ざしており、地域によって必ず違いがあるため、アイデンティティーと関係しています。

また、年齢、性別など問わない地域の人たちが協力をし合うため、コミュニティを強化してくれます。

これらは研究によっても明らかになっています。

“既存研究”

また、東日本大震災の時にいち早く祭りを復活させた地域は、地域の復興そのものが進んでいった事例が見られています。

このように祭りは、地域を結束させるパワーがあると考えられました。私は、このパワーを生かしたいと思っています。

今、考えている敷地は、京都市左京区にある修学院地区です。祖父母の家があり、毎年祭りに参加していたというきっかけがあり、選びました。

修学院では、さんよれ祭りが行われます。これが祭りの様子です。5月4日と5日で2日間かけて行われます。祭りの行程は、このようになっています。

現地調査では、敷地と祭りに関するスポットと祭りのルートを周りました。

修学院離宮

赤山神社

修学院御旅所

鷺森神社

神輿は今紹介した4つのスポットを基本的に台車に乗って巡回します。ルート途中にある、この7つのポイントは、神輿を担ぐポイントです。また、担いだ後に、休憩をして、振る舞いをいただいたりもします。

これは、町並みの雰囲気です。

現地を実際に歩いてみると、

歴史的な場所と住宅街などが調和されずに分断されているように感じることに

山の麓で自然と近く、紅葉などの季節が楽しめる地域であることに

などの気づきがありました。

私は、ここまでのことをふまえて、

祭りのルートが地域をつなぐラインと捉えて、各7つのスポットに地域をよくする場を作りたいと考えています。

具体的な案はまだですが、例えば、修学院が昔、名のある人や旅人の休み処であったことから、休み処をテーマにしたコミュニティスペースをつくり、普段の日と祭りの日で休み方や空間が変化するなどを考えています。7つのスポットは一つずつ個性や行われる行為に違いがあるようにすることも考えています。

最後に、

今後の予定は、このように考えています。

次回の中間発表までに修学院地域における祭り、または、風土物から成るアイデンティティーとコミュニティの整理を行い、具体的なアイデアを出し、スタディーをつくるころまでしたいと思っています。

以上で発表を終わります。